

2006年12月25日 第293号



# スズキ労連

2006年  
12月号

静岡県浜松市増楽町20  
電話(053)447-3079  
スズキ関連労働組合連合会  
発行人 加藤 幸博  
編集人 光田 玄

## 喝! 第35期 スズキ労連 政策制度研修会開催

第35期スズキ労連・政策制度研修会が開催されました。スズキ労連では加盟単組の役員を対象として年に1度、政治・政策・社会制度の勉強会をしています。組合と会社では解決できない社会の制度についてしくみを知り、公平な社会実現のため運動を行っております。組織内候補を政治の世界に送り出すこともその運動のひとつです。当日は駅伝大会終了後の開催となり、中には駅伝に出場されてお疲れの方もおられましたが、全員真剣に講義を聞き理解を深めた様子でした。



会長挨拶：労連一丸となって  
政策制度に取り組みましょう!!

- ☆ 開催日時：2006年11月26日(日) 13:30～16:45
- ☆ 開催場所：スズキ労働会館
- ☆ 参加人数：34人



### 講義Ⅰ『浜松市政について』 講師：田口副会長

- ・浜松市が運営する施設の財政について
- ・教育基本法改正と現場とのギャップについて  
政令市になると教育委員会の人事権が県から市へ移譲されるので、これを期に市独自の教育方針を打ち出すべき。
- ・浜松市の国民健康保険会計収支が25億円不足することだが、これは未納問題をクリアできれば解決できる問題。税投入の前にやるべきことがあるのではないかと。
- ・浜松市の待機児童数は多すぎ。保育園の増設は急務で必要な事業にはお金をまわす必要がある。
- ・浜松から企業が移転する「空洞化」は深刻。元気な街づくりには、雇用の拡大と税源確保のためにも産業の育成は欠かせない。

政令市誕生を機に、みなさんと一緒に「元気な浜松」を創っていきましょう。

田口章のブログ『田口の雑記帳』 <http://taguti-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>



### 講義Ⅱ『国の政策制度』 講師：根本中執（スズキ労連政治委員）

- Q&A形式での講義を行い、労働組合が国政選挙に関わる意義、総連組織内議員「いけぐち修次」の活動について勉強した。
- (↓おもな項目を抜粋↓)
- Q. どうして労組が政治活動をしなければならないのか？
- A. 普段の組合活動では解決できない税制・福祉・教育・治安といった課題は政治や行政の場で解決を求めざるを得ない。
- Q. 労働組合と政党の関係は？なぜ民主党なの？
- A. 2大政党で政権交代が可能な社会が理想。いま自民党に対抗できるのは民主党だけ。また勤労者の立場により近い政策は、私たちが掲げる政策と方向性が同じ。
- Q. いけぐち修次さんが努力したこと、これからやろうとしていることは？
- A. 自動車産業の代表として自動車関係諸税の簡素化・軽減化、特に道路特定財源の一般財源化阻止に向けた取り組みを続けている。今後も公平公正な年金制度、パート社員の均等配置、高速道路無料化等に取り組んでいく。

私たちの声を国政の場へ…。国政について勉強します。



パワーポイントを用いて労働組合と政治活動の関わりを説明。

### 講義Ⅲ『労働組合と身近な政治活動』 講師：池富中執（スズキ労連経営対策委員）

- 労働組合の政治活動は、
1. 身近な政策制度実現活動（教育・福祉の充実 30人学級の実現など）
  2. 政治教育活動（研修・勉強会を開催し組合員の政治意識を高める）
  3. 組織強化活動（普段からコミュニケーションを図り、組合執行部への協力体制強化）
  4. 選挙活動がある。
- 選挙活動を行う意義はさまざま、ナショナルセンターである連合は、衆議院・参議院・都道府県議会や市町村の長や議会に大きな影響力を持ち、政策の実現を図る。産業別組織である自動車総連などは、連合の選挙を支えていくほかに独自の産業政策を進めていき、それらの産業をより活性化させる必要がある。私たち労連、単組は連合や産別の政治活動を実践するだけではなく地域の問題に積極的に関わっていくための独自の候補者を擁立し地域の生活者としての政策実現をめざす。浜松市に関しても、30人学級、犯罪外国人引渡しの署名活動、保育園の増設など身近で喫緊の課題が多数あり、市議に組織内議員を送り込み、政策実現に向けた取り組みを行う必要がある。

# スズキ労連の仲間達をご紹介します「うちの組合」

## 単組名：スズキ部品浜松労働組合

- 所在地：磐田市南平松7-3
- 組合員数：223名
- 結成年：1968年
- 委員長名：内山 寿之
- レポーター名：山本 満
- 紹介文

スズキ部品浜松労働組合は、1968年2月18日に可美小学校講堂に於いて産声を上げ早40年を迎えようとしているところです。

過去を振り返れば2度に亘る人員整理を余儀なくされる等、極めて困難な時代も組合員の団結力で乗り切ってきた、力強いパワーと底力がある組合といえるのではないのでしょうか。（やればできる！）

執行部は10名と会計監査2名、職場委員19名（内女性1名）で構成されています。平均年齢は一部除いて若く、30代前半といったところになるかと思えます。昼休みは必ず3役が組合事務所にいるようにして、組合員が気軽に寄れる様に日々心掛けています。

年間行事については、会社と組合が共同してイベントを企画し、参加率の向上に向けて日々開催計画を考案しています。

最近の特徴点としては、中途社員の採用により、新組合員が増えたことがあります。なかなか計画通り教育が出来ていないのが悩みの点であります。近年、労働組合の組織の低下が叫ばれている中、組合として本来の意味での価値観やあるべき姿について、組合員一人ひとりが原点に戻って明日に向かって更なる努力を重ねていきます。くれぐれもスズキ部品浜松労働組合をよろしくね！

後列左より、内山（記）執行委員、富田副執行委員長、内山（寿）執行委員長、鈴木書記長、大橋執行委員、川口執行委員  
前列が左より野田執行委員、山本執行委員、豊田執行委員



## 単組名：スズキ輸送梱包労働組合

- 所在地：浜松市倉松町2633
- 組合員数：148名
- 結成年：1969年
- 委員長名：柴田 義和
- レポーター名：平塚 訓孝
- 紹介文

スズキ輸送梱包労働組合は、スズキ労連の中で現在、唯一の輸送部門として加盟している組合です。

執行部は、10名体制で、ベテランから新人までの幅広い層で構成されています。

組合員は、浜松の本社を拠点に、湖西・磐田を始めスズキ(株)各工場や配車センターなど全国でスズキグループの一員として頑張っています。

組合活動としては、レクリエーション活動として、組合員及び家族との親睦を深めるため、年2回夏と冬にバス旅行を行っています。

職場が各工場などに点在していることもあり、組合活動については試行錯誤を繰り返していますが、各職場の執行委員が先頭に立ち組合員の皆さんと協力を図りながら進めています。

少し会社の紹介をさせていただきます。スズキ輸送梱包(株)は、各部品メーカーで製造された生産用部品を各工場へ輸送し、各工場で生産された製品を納整センター及び港、配車センターを経由し全国の代理店まで輸送しています。さらには、二輪・四輪の梱包作業及び梱包された部品の港への輸送も行っています。

今後も、柴田執行委員長を中心に執行部一丸となってがんばっていきますので、皆様の変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。

後列左から、村木執行委員、古川執行委員、竹下執行委員、木下執行委員  
前列左から、植田執行委員、高橋副執行委員長、柴田執行委員長、瀧美副執行委員長、平塚書記長

